

2021年コーポレートガバナンスの現在地

《連載の趣旨》

六月一日、コーポレートガバナンス・コード等の再改訂が公表されたが、その改訂案を取りまとめたSSコード・CGコードのフォローアップ会議第二六回会議では、再改訂コードの各原則だけでなく、その趣旨をよく周知すべきという意見が多く出された。近年は、コーポレートガバナンス改革の課題として「形式から実質への深化」が挙げられることが多いが、この会議の様子は、引き続き「深化」が大きな課題であることを表しているように思われる。

また、編集部としても、形式から実質への深化のためには、CGコード等の客観的解説を掲載するのに加えて、コーポレートガバナンスの各テーマについて精通し、実際に企業の方々とその向上に取り組まれている有識者の方々に、ご自身の経験に基づく言葉で、各テーマについて企業が取り組むべき理由等を説明いただくことが重要ではないかと考えた。また、コーポレートガバナンスを含むESGの潮流は日進月歩であり、その説明は最新の知見を踏まえてアップデートされる必要がある。そこで各年連載として企画したのが本連載である。

本連載では、以下の掲載予定テーマについて、企業が取り組むべき理由と行うべき具体的な取組みを整理し、参考となる実例を紹介することで、コーポレートガバナンスの見直しに関する実務指針を示すことを目指している。二テーマ／三テーマごとに掲載し、各テーマについて順不同で掲載していく。そこで、この掲載予定テーマ一覧は見取り図として各号に掲載する予定である。

本号では(1)(2)として、いずれも大テーマである資本コスト経営、モニタリング・モデル／機関設計を扱う二つの論稿を掲載する。前者では、ROEやPBRという指標の説明にとどまらず、そもそも資本コストが要求される背景、サステナビリティ経営の要請との関係、経営者が資本コストを使いこなしているとはどのような状況なのかなどについて説明がなされる。後者では、株主と執行側にとつてのモニタリング・モデルの意味を整理し、機関設計の観点からその採用指針を示す。

読者の皆様が本連載を通して各テーマについて腹落ちし、コーポレートガバナンスの深化につながることを期待している。

(編集部)

《掲載予定テーマ一覧》

- I 会社事業の視点
 - 資本コスト経営
 - 社会・環境問題への対応
 - 事業ポートフォリオマネジメント
 - デジタルトランスフォーメーション
 - 人財ガバナンス・知財ガバナンス
- II 会社組織の視点
 - 取締役会の構成（スキル、ダイバーシティ）
 - 取締役会議長
 - 社外取締役の機能発揮
 - CEO後継者計画と指名委員会
 - 役員報酬と報酬委員会
 - 経営陣幹部の監督・選解任
 - 監査役の役割
 - コンプライアンス（内部監査・内部通報等）
 - モニタリングモデルと機関設計
 - 取締役会実効性評価
 - 取締役会事務局
- III グループガバナンス
- IV 対話の視点